

平成20年度 沖縄県立総合教育センター長期研修(後期)  
教科研修班 保健体育

検証授業

体育科学学習指導案

〈研究テーマ〉

体を動かす楽しさや心地よさを味わう学習指導の工夫  
— 仲間とかかわるGボール運動とチャレンジ運動を通して(第3学年) —



日 時 平成21年1月16日(金) 5校時  
場 所 恩納村立安富祖小中学校  
授 業 者 安座間直樹  
担当主事 比嘉正央

# 体育科学習指導案

日 時：平成21年1月16日（金）5校時  
学 校 名：恩納村立安富祖小学校  
対 象：3年1組 男子9名 女子10名 計19名  
授 業 者：安座間直樹  
担当主事：比嘉正央

## 1 領域・単元名 体づくり運動 「ワクワク チャレンジ Gボール!!」

### 2 テーマ設定の理由

今日、様々な社会変化に伴い、子どもたちを取り巻く社会環境や生活様式も変化してきており、子どもの体力・運動能力の低下や心身の健康問題が大きな社会問題になっている。中教審答申(2002年9月)「子どもの体力向上のための総合的な方策について」では、子どもの体力運動能力の低下傾向や、運動する子どもとしない子どもの二極化の傾向を指摘している。その原因の一つとして、スポーツや外遊びに不可欠な要素である時間・空間・仲間の3つの減少が考えられると示し、「生涯にわたって運動に親しむ態度」の形成を重視すると述べている。それを受けて新学習指導要領では、「体づくり運動」の一層の充実を改善点に掲げ、低・中学年の中心となる運動領域「基本の運動」に代わり、これまで高学年から実施されていた「体づくり運動」を「体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。」を目標に、低学年段階から導入している。また、低・中学年においては年間授業時数が増加され、体力向上を図る体育科の重要性がますます高まってきている。

体育学習における本学級の児童の実態を見ると、活発かつ好奇心旺盛でほとんどの児童が体を動かすことは好きで、各自それぞれの課題に対しては意欲的に活動することができる。ところが、仲間同士で見合う、教え合う、などの協力して活動することは苦手である。そのため、仲間とともに取り組む学習では達成感を味わうことができない場面も多く見受けられ、体を動かす楽しさや心地よさを十分に味わえていないようにうかがえる。このことから、体づくり運動における指導の工夫が課題であると考えられる。

そこで本研究では、体を動かしながら仲間とともに達成感を味わう学習の手立てとして、体づくり運動の指導の工夫をし、かかわりを重視した活動の場を作ることを考えた。その手段として、仲間とともに多様な動きに挑戦するGボール運動と、一つの課題を仲間と解決していくチャレンジ運動を行う。そのような学習を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる学習指導の展開を図りたい。

### 3 研究仮説

体づくり運動において、仲間とのかかわりを重視したGボール運動とチャレンジ運動の指導を工夫することにより、仲間と豊かにかかわり、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるであろう。

### 4 単元について

#### (1) 教材観

「体づくり運動」は自己の体への気付き、体の調整、仲間との交流をねらいとした「体ほぐしの運動」と体の動きや働きを高め、将来の体力の向上につなげていくことをねらいとする「多様な動きをつくる運動」とで構成されている。改訂された学習指導要領では、「子どもたちの体力が低下する中で、運動の楽しさや基本となる体の動きを身に付けることを重視する視点から、低・中学年の授業時数の増加が図られたこと、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向や体力の低下傾向を受け低学年から体づくり運動が取り上げられた」と示している。学習指導要領における体づくり運動の目標を下記に示す。



図1 体づくり運動のねらい

【学習指導要領の内容】

A 体づくり運動

(1) 次の運動を行い，体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに，体の基本的な動きができるようにする。【運動（技能）の内容】

ア 体ほぐしの運動では，心と体の変化に気付いたり，体の調子を整えたり，みんなでかわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。

イ 多様な動きをつくる運動では，体のバランスや移動，用具の操作などとともに，それらを組み合わせること。

(2) 運動に進んで取り組み，きまりを守り仲よく運動をしたり，場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。【態度の内容】

(3) 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。【思考・判断の内容】

(2) 児童観

本学級の児童は活発かつ好奇心旺盛で何事にも興味を示す児童が多い。ほとんどの児童が体を動かすことは好きで，アンケート結果からも分かるように「体育の学習は好きですか。」という質問に対して全員が好意的にとらえている。また，「学び方」や「技能」の次元評価が高いことから，各自それぞれの課題に対しては意欲的に活動し，できる喜びを味わうことができる。その反面，「体育で体を動かすと，とても気持ちがいい。」の問いでも気持ちがいい。」の問いに対して

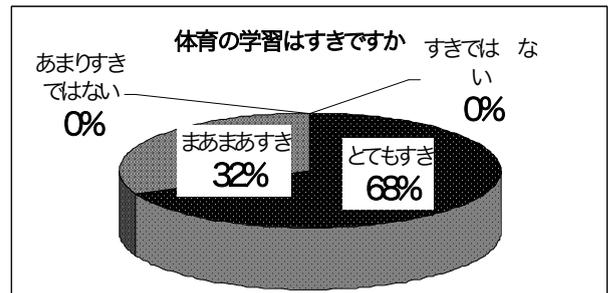


図2 体育学習についてのアンケート

表1 診断的授業評価（5段階評価） ※5が一番高い

5段階評価の1で「楽しさ」の次元評価も3と低い。また，「体育をしているとき，うまい子や強いチームを見てうまくできる。やり方を考えることができる。」の問いに対しても評価が1で「協力」の次元評価も3と低いことから，仲間同士で見合う教え合う，約束を守るなどの協力して活動することは苦手であるため，体育の授業における「楽しさ」の評価が低くなっていると考えられる。以上のことから仲間との豊かなかわりをもつ学習指導を工夫することによって仲間のよさを知り，体育学習における楽しさを味わうことができるのではないかと考える。

観点	項目	評価	次元評価
楽しさ (情意目標)	体育では，みんなが楽しく勉強できる。	3	3
	体育は，明るくてあたたかい感じがする。	4	
	体育をすると，体がじょうぶになる。	4	
	体育では，せいっぱい運動することができる。	3	
	体育で，体を動かすと，とても気持ちがいい。	1	
学び方 (認識目標)	体育をしているとき，どうしたら運動がうまくできるかを考えながら勉強している。	5	4
	体育をしているとき，うまい子や強いチームを見てうまくできるやり方を考えることができる。	1	
	体育で運動するとき，自分のめあてをもって勉強する。	5	
	体育で，ならった運動を休み時間やほかの時間に練習することができる。	3	
	体育では友だちや先生がはげましてくれる。	4	
技能 (運動目標)	わたし(ぼく)は運動が，上手にできるほうだと思う。	5	5
	わたし(ぼく)は少しむずかしい運動でも練習するとできるようになる自信がある。	5	
	体育では，自分から進んで運動する。	4	
	体育が始まる前は，いつもはりきっている。	4	
	体育では，いろいろな運動が上手にできるようになる。	4	
協力 (社会的行動目標)	体育では，いたずらや自分勝手なことはしない。	3	3
	体育では，クラスやグループの約束を守ることができる。	2	
	体育では，先生の話をしっかり聞くことができる。	2	
	体育で，ゲームや競争をするときは，ルールを守る。	3	
	体育で，ゲームや競争をするとき，ずるいことやひきょうなことをして勝とうとは思わない。	3	
総合評価			4

(3) 指導観

本単元では児童が仲間と豊かにかかわり合い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる学習指導の展開を図りたい。仲間と豊かにかかわるためには、かかわりを重視した活動の場を多く作ることが重要である。その活動の場として仲間とともに多様な動きに挑戦するGボール運動と、一つの課題を仲間と解決していくチャレンジ運動を行う。また、児童の学習カードを活用し、教師の授業の振り返りを行い、児童の実態に応じた運動内容を毎時間見直していきたい。

5 学習指導の工夫

(1) 体づくり運動とGボール運動

表2 体ほぐしの運動とGボール運動の特性

改訂された学習指導要領の解説において、中学年の「体づくり運動」の用具を操作する運動の例示として「Gボールに乗って、軽くはずんだり転がったりすること」が示された。Gボールの「G」はGravity（重心）Giant（巨大）Gymnastics（体操）の頭文字に由来するものである。Gボール運動は体づくり運動の「体ほぐしの運動」と「多様な動きをつくる運動」のねらいを達成するのに有効な手段であると考え、Gボールを用いた体づくり運動の授業を展開していく。

気付き	Gravity (重心)	揺れ動くボールの上で乗る・弾む・転がる運動を通して自己や仲間の体の使い方に気付く。
調整	Gymnastics (体操)	柔らかな曲面と弾性を利用し、様々な動きで多彩な運動感覚を引き出し、体を調整する力を高めることができる。
交流	Giant (巨大)	人が乗ることができる大きなボールは仲間と協力し合ったり、助け合ったりすることで楽しさが増す。



図3 体ほぐしの運動とGボール運動の関係

図4 多様な動きをつくる運動とGボール運動

(2) 体づくり運動とチャレンジ運動

チャレンジ運動とは仲間との交流や肯定的な人間関係の育成を目的として、アメリカで開発された体育学習プログラムである。チャレンジ運動は教師が示した課題に対して指名されたリーダーのもと、課題を解決していく。その課題は仲間との協力が必要不可欠であり、課題を達成する「集団的達成」の喜びを味わう中で肯定的な人間関係を育成し、責任感を育てることなどをねらいとして行われる運動である。そのため、体ほぐしの運動の仲間との交流に位置づけることができる運動である。



図5 チャレンジ運動の目的

本学級の児童は仲間と力を合わせて行う活動や教え合う活動が苦手である。そのためチャレンジ運動を用いて集団での達成感を味わわせたい。そして毎時間異なった課題へ取り組み、達成感を繰り返し味わうことで、肯定的な人間関係を育成し、集団的高まりを形成し、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせていきたい。今回はGボールを活用したチャレンジ運動の教材化を図り実践する。

(3) 音楽の工夫

学習指導要領の内容には「体づくり運動の指導においては伴奏音楽などを取り入れ、楽しく授業を展開することが必要である。」と示されている。本単元においても運動にどっぷりつかり、仲間と豊かにかかわるような音楽を効果的に活用し、運動の楽しさや心地よさを味わうことができる学習展開を図りたい。効果的な音楽の活用方法を表3のように分類した。

表3 体づくり運動における効果的な音楽の活用方法の分類

学習場面	音楽の特徴とリズムの分類
体ほぐしの運動	単調で律動的な音楽 ♪120～♪130
多様な動きをつくる運動	子どもたちが身近で聴き慣れた音楽 ♪130～♪140
チャレンジ運動	チームで協力して課題解決を促進する音楽 ♪120～♪150 キーワード「冒険」「チャレンジャー」「勇気」「あきらめない」「協力」
振り返り	ゆったりとしたメッセージ性のある音楽 ♪82～♪86

## (4) 肯定的なかかわりを促進する工夫

体育学習における肯定的なかかわりを促進する手だてとして、授業の各場面ごとをイメージし、表4に示すように整理し実践した。

表4 肯定的なかかわりを促進する手だて

場面	手だて
授業の始め	○肯定的な言葉かけの確認をする。 (いいぞ・うまいね・やったー・すごい・その調子・おいしい・あとすこし・がんばろう) ○仲間のよいところを見つける視点を与える。
準備運動 2,3人での活動	○自分や友達の体の様子に意識させる言葉かけを行う。 ○毎時間バディを替え、多くの仲間とかかわりを持たせる。
チームでの活動	○チームへの所属意識を高める。 (チーム名・気合い・ハイタッチ・決めポーズ等チームのオリジナルを創る。)
学習の振り返り	○友達やチームのよかった所を発表し合ったり、学習カードに書いた感想を学級の掲示板で紹介する。 ○チームが融和的に進んだり、衝突した場面を具体的に振り返り、その原因を見つける視点を与える。
※停滞している児童	○活躍の場の設定、教師が加わり一緒に活動する。

## 6 運動の特性

## (1) 一般的特性

Gボール運動は調整力(巧緻性・平衡性・敏捷性)を培うことができ、1人で「乗る・弾む・転がる」の動きを中心に、2人、3人、4人へと様々な活動へと発展していくことができる運動である。さらに、心と体をリラックスさせることができたり、仲間と協力して、様々な運動課題に挑戦することができる運動である。チャレンジ運動は、仲間との協力が必要不可欠な課題を解決することによって、集団的達成感を味わい、肯定的な人間関係を形成することができる運動である。

## (2) 子どもから見た特性

子どもたちにとってGボールは一人で乗って楽しむことができる運動である。しかしながら、仲間とともに活動するGボールの活用の仕方は未履修のため、知られていない。そのため、様々な活用の仕方や運動課題を設定することにより、よりGボール運動の特性に触れ、楽しむことができる運動である。また、チャレンジ運動について、子どもたちは仲間と共に活動することが苦手である。そのため、仲間との協力が必要不可欠な課題を解決していくことにより、仲間のよさを知り、ともに高め合い、運動の楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。

## 7 学習のねらいと道すじ

## (1) 学習のねらい

仲間と協力して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようになる。

## (2) 道すじ

- めあて1 自分や友だちの心や体に気づこう。
- めあて2 いろいろな動きにチャレンジしよう。
- めあて3 チームで力を合わせ、チャレンジかだいをクリアしよう。

8 単元の指導計画（8時間）

時間	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	8
 一時間の流れ	オリエンテーション 学習の進め方	めあて1	自分や友だちの心や体に気づこう。 (体ほぐしの運動)					学 の ま と め
	Gボール になれよう	めあて2	いろいろな動きにチャレンジしよう。 (多様な動きをつくる運動)					
		めあて3	ウェーブ ジャンプ	サンドイッチ チウオーク	サンドイッチ チウオーク	ロング すべり台	ロング すべり台	
	ふり回り							

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能
①自己や仲間の体に関心を持ち、きまりを守り仲良く進んで取り組むことができる。また、互いに協力し、場や用具の安全に気を付けて運動することができる	①自己の体や仲間の体の状態に気づき、仲間と協力するよさが分かる。 ②Gボール運動の様々な運動課題に対してのコツが分かる。また、チャレンジ運動において、課題解決に向けての方法を考えることができる。	①Gボールを用いて、いろいろな姿勢での動きやGボールを操作する動きなど、体の基本的な動きができる。

(2) 評価計画

時期	評価観点	評価内容	評価方法
単元の前 (診断的評価)	実態把握	・体育学習に対する実態把握 (興味・関心・態度・経験の把握)	質問紙法
単元の中 (形成的評価)	1 関心・意欲 態度	・Gボールに関心を持ち、学習意欲を高めることができる。	行動観察 学習カード 発言
	思考・判断	・学習の見通しを持ち、ルールやマナーを理解することができる。	
	2 5 7 関心・意欲 態度	・自己や仲間の体に関心を持つことができる。 ・きまりを守ることができる。 ・友だちやチームで協力して学習することができる。 ・安全を確かめながら進んでいろいろな動きをする。 ・学習の準備・片づけを協力してできる。	行動観察 学習カード 発言
思考・判断	・自己や仲間の体の様子に気付くことができる。 ・仲間と協力するよさが分かる。 ・Gボール運動の様々な運動課題に対してのコツが分かる。 ・課題解決に向けての方法を考えることができる。		
技能	・Gボールを用いての様々な動きができる。		
単元の後 (総括的評価)	まとめの評価	・運動に対する楽しさや心地よさを感じることができたか。 ・ペアやチームで協力することができたか。	質問紙 感想文

9 学習活動と指導の展開

	学習のねらいと活動	◎教師の支援	【 】評価
はじめ 4 5 分	○オリエンテーション 1 学習のねらいや道すじ、学習の進め方を理解する。 ・ルールやマナーを確認する。 ・学習カードの使い方を知る。	◎パワーポイントを用いて、説明する。	【思】学習の見通しを持ち、ルールやマナーを理解する
	2 Gボールになれる。 ・Gボールを使った様々な運動を考える。	◎ユニークな運動を考えているグループを取り上げ紹介する	【関】Gボールに関心を持ち、学習意欲を高めることができる。
	3 今日の学習をふりかえる。	◎次時からの学習の意欲を高める。	
	1 学習のめあてを確認し、ルールマナーを確認する。	◎仲良く協力のキーワードをおさえる。 ◎肯定的な言葉や安全面の確認をする。	【関】学習の準備を協力してできる。
	2 体ほぐしの運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">めあて1 自分や友だちの心や体に気づこう。</div>		

<p>なか ① 4 5 分 × 1</p>	<p>☆弾む はずんでマッサージ・助けて おしくらまんじゅう ☆バランスをとる 優勝カップ 頭と頭 背中ではさんでスタンドアップ ☆ころがる せなかでさんぽ 3 多様な動きをつくる運動を行う。</p>	<p>◎律動的な動きを促す音楽を流す。 ◎毎時間ペアを替える。 ◎自分や友だちの体に気付かせる言葉かけをする。</p>	<p>【関】 自己や仲間の体に関心を持つことができる。 【思】 自己や仲間の体の様子に気づくことができる。</p>
<p><b>めあて2 いろいろな動きにチャレンジしよう。</b></p>			
<p>4 5</p>	<p>☆弾む はずんでジャンプ ☆バランスをとる バンザイ・4つ足バランス 十字架・正座 4 体力測定をしよう ・4つ足バランス( )秒 ・はずんでジャンプ( )回 5 今日の学習を振り返る。 ・ワークシートに記入する。 ・みんなで振り返る。</p>	<p>◎安全に配慮する。 ◎アップテンポな躍動感のある音楽を流す。 ◎うまくできるポイントを提示する。 ◎友だちや各グループのよかったところを見付けることができる言葉かけをする。 ◎次時の活動を知らせ、意欲を高める。</p>	<p>【関】 安全を確かめながら進んでいろいろな動きをすることができる。 【思】 Gボール運動の様々な運動課題に対してのコツが分かる。 【技】 Gボールを用いての様々な動きができる。 【関】 きまりを守ることができる。 【思】 仲間と協力するよさが分かる。</p>
<p>1 2</p>	<p>1 学習のめあてを確認し、ルール・マナーを確認する。 2 体ほぐしの運動を行う。</p>	<p>◎仲良く協力のキーワードをおさえる。 ◎肯定的な言葉や安全面の確認をする。</p>	<p>【関】 学習の準備を協力してできる。</p>
<p><b>めあて1 自分や友だちの心や体に気づこう。</b></p>			
<p>なか ② 4 5 分 × 5</p>	<p>☆弾む はずんでマッサージ・助けて せなかではずもう・ブリッジ おしくらまんじゅう ☆バランスをとる 優勝カップ・サンドイッチ 頭と頭でバランス ☆ころがる すべり台・せなかでさんぽ 3 多様な動きをつくる運動を行う。</p>	<p>◎律動的な動きを促す音楽を流す。 ◎毎時間ペアを替える。 ◎自分や友だちの体に気付かせる言葉かけをする。</p>	<p>【関】 自己や仲間の体に関心を持つことができる。 【思】 自己や仲間の体の様子に気づくことができる。</p>
<p><b>めあて2 いろいろな動きにチャレンジしよう。</b></p>			
<p>4 5 分 × 5</p>	<p>☆弾む はずんでジャンプ ☆バランスをとる バンザイ・4つ足バランス 十字架・正座 ☆ころがる スーパーマン・スライディング 4 チャレンジ運動を行う。</p>	<p>◎安全に配慮する。 ◎アップテンポな躍動感のある音楽を流す。 ◎うまくできるポイントを提示する。</p>	<p>【関】 安全を確かめながら進んでいろいろな動きをすることができる。 【思】 Gボール運動の様々な運動課題に対してのコツが分かる。 【技】 Gボールを用いての様々な動きができる。</p>
<p><b>めあて3 チームで力を合わせ、チャレンジかだいをクリアしよう。</b></p>			
<p>5</p>	<p>☆ウエイブジャンプ ☆サンドイッチウオーク ☆ロングすべり台 5 今日の学習を振り返る。 ・ワークシートに記入する。 ・みんなで振り返る。</p>	<p>◎仲間同士で豊かなかわりを促す音楽を流す。 ◎停滞しているグループにはうまくいったときのポイントに気付かせる。 ◎友だちや各グループのよかったところを見付けることができる言葉かけをする。 ◎次時の活動を知らせ、意欲を高める。</p>	<p>【関】 友だちやチームで協力して学習することができる。 【思】 課題解決に向けての方法を考えることができる。 【関】 きまりを守ることができる。 【思】 仲間と協力するよさが分かる。</p>
<p>まとめ 4 5 分</p>	<p>○学習の総括的評価 1 ワークシートや写真、映像をもとに単元を振り返り、単元を終えての感想をまとめる。 2 単元の感想を発表し合い、学んだことを深め合う。</p>	<p>◎単元前と比べ、児童の伸びた点を示し、学習の成果を実感させる。</p>	<p>【関・思】 ・運動に対する楽しさや心地よさを味わうことができたか。 ・ペアやチームで協力することができたか。</p>

10 本時の学習（5／8時間）

(1) 学習のねらい

仲間と力を合わせ、いろいろなGボール運動にチャレンジし、楽しさや心地よさを味わおう。

(2) 授業仮説

チャレンジ運動において、児童の実態に応じた課題を設定し、成功するポイントに気付かせることにより、仲間と達成感を味わい、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるであろう。

(3) 準備

Gボール マット CDプレイヤー 音楽 パソコン プロジェクター

(4) 評価規準

主な学習活動	評価規準とその方法	具体的な評価規準		
		A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(支援の具体的方策)
①自分や友だちの体や心に気付き、体ほぐしの運動を行う。 ②いろいろな動きに挑戦したり、チームで力を合わせてチャレンジ課題をクリアする。 ③今日の学習を振り返り、次時の学習を確認する。	○自己や仲間の体や心に関心を持ち、体ほぐしの運動を行うことができる  ○他のグループの活動の良い所を感じとりながら課題解決に向けた方法を考えることができる。	○自己や仲間の体や心に関心をもつことができ、いろいろな動きに挑戦しながら体ほぐしの運動を行うことができる。  ○他のグループの活動の良い所を感じとり、自分のグループの活動に生かすことができる。	○自己や仲間の体や心に関心をもつことができ、体ほぐしの運動を行うことができる。  ○課題解決に向けた方法を考えることができる。	○自分や友だちの体の状態に気付くような言葉かけをしたり、体ほぐしの運動を紹介する。  ○チャレンジ課題をクリアしたグループのポイントに気付かせる。

(5) 展開

	学習のねらい・活動	○教師の支援【 】評価
はじめ	1 学習の準備をする。 2 今日の学習の確認をする。 3 体ほぐしの運動を行う。  めあて1 自分や友だちの体や心に気づこう。  ・はずんでマッサージ ・たすけて～ ・はずんでブリッジ ・2人ではずもう ・サンドイッチで歩こう ・おなかでキャッチ	○肯定的な言葉かけの確認をする。 ○体育学習におけるルール・マナー・安全面の確認をする。  ○律動的な動きを促す音楽を流す。 ○自分や友だちの体に気付かせる言葉かけをする。 【関】自己や仲間の体に関心を持つことができる。 【思】自己や仲間の体の様子に気づくことができる。
なか	4 多様な動きをつくる運動を行う。  めあて2 いろいろな動きにチャレンジしよう。  ・バンザイバランス ・十字架 ・はっけよい ・スーパーマン ・スライディング	○子どもたちが身近で聴き慣れた音楽を流す。 ○うまくできるポイントを提示する。 【関】安全を確かめながら進んでいるいろいろな動きに挑戦することができる。 【思】Gボール運動の様々な運動課題に対してのコツが分かる。 【技】Gボールを用いての様々な動きができる。
30分	5 チャレンジ運動を行う。  めあて3 チームで力を合わせ、チャレンジかだいをクリアしよう。  ・サンドイッチウォーク ○レベル1 チームみんなでサンドイッチを作り、体育館の端から端まで歩けたらクリア!! ○レベル2 端まで行ったらみんなで回れ右をして戻る。戻ってきたらクリア!!	○チームで協力して課題解決を促す音楽を流す。 ○肯定的な言葉やルールの確認をする。 ○話し合いがうまくいくような言葉かけをする。 ○停滞しているグループにはクリアしたチームのコツに気付かせる。 【関】友だちやチームで協力して学習することができる。 【思】課題解決に向けての方法を考えることができる。
まとめ	6 今日の学習を振り返る。 ・ワークシートに記入する。 ・みんなで振り返る。 ・次時の心構えを整える。	○ゆったりとしたメッセージ性のある音楽を流す。 ○友だちや各グループのよかったところを見付けることができる言葉かけをする。 ○次時の活動を知らせ、意欲を高める。 【関】最後まで、きまりを守ることができる。 【思】仲間と協力するよさ分かる。

